日本基督教団　梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

第264号　2025年　7月号

発行人　牧師　広田叔弘
企画編集　広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2025年　6月22日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田3-37-7
TEL：03-3414-5772
FAX：03-3414-5778

『いつか見た青い空』

牧師　広田叔弘

主はあなたを見守る方
あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。
昼、太陽はあなたを撃つことがなく
夜、月もあなたを撃つことがない。

詩編　121編5～6節

梅雨を迎えました。あと一か月もたてば夏本番。子どもたちは夏休みです。この季節を迎えると、ふとため息が出ます。一年の半分が終わろうとしています。教会の営みを振り返れば、一つ一つを話し合い、皆で協力してここまで来たと思います。それは平凡な日常かもしれません。しかし、当たり前なことが当たり前に進んでいることは大きな恵みです。そして同時に「来る夏を乗り越え、秋を迎えて、次はクリスマスへ」等々を考えます。礼拝の出席者が増えているわけではありません。一年たてば皆一つ年を取ります。このような現実の中で、ふと疲れを覚える・・・。

けれども、これが普通のことなのかもしれません。「生きる意味」などと申します。意味があるから生きているわけではありません。生きる中で意味が生まれるのでしょう。そして日常はいつも手探りです。目標に向かって労苦を重ね、最善を探して現実への対応を続けていく。

冒頭に掲げた詩編は「巡礼歌集」と呼ばれる詩集の中の一つです。主人公は巡礼団の中にいる一人。帰る日が来ました。神殿を後にして家に帰る。日常生活が始まります。帰路を前にした主人公は得体のしれない不安を覚えます。山坂のある帰り道が辛いのではありません。生きて行くことが不安なのです。予見できない現実が待っています。そして葛藤を抱く彼に祭司が祝福を告げるのです。

主はあなたを見守る方
あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

誰もが頑張って生きています。たくさんの人との繋がりがあります。努力が実を結ぶ尊さも知っています。同時に、呑み込むことのできない酷い現実があることも知っている。だから私たちは、手探りで明日の幸いを求めて歩むのでしょう。そしてこのような歩みに主が伴ってくださるのなら、それが救いです。

『いつか見た青い空』六十年代に制作されたアメリカ映画のタイトルです。憂いのない遠い昔に澄んだ青い空を見た。誰もが心の中に小さな青い空を持っている。私たちはその青空を求めて、世を旅しているのかもしれません。ひとりではない。主キリストと共に一歩一歩、道を歩んで行くのだと思うのです。